

# ドイツ Now 2020 7月号

国際交流委員会 2-1 海老澤彩陽 2-8 中村佳織

今年はドイツの姉妹校「ライヒハート・ギムナジウム」の生徒が来校する年でしたが、コロナウィルスの影響で来年に延期になりました。そこで今回のドイツ Now では、来年大宮高校に来るドイツ生2名を紹介します。こちらからの質問にオンラインで答えてくれました。

## Franjo Gittel (フランジョ・ギッテル) くん



14歳

趣味：クライミング ゲーム

好きな科目：美術 体育 地理

好きな食べ物：お寿司 ピザ パスタ シュニッツェル

Franjo くんの家のお近くにはお寿司屋さんがあってよく行くそうです。シュニッツェルはドイツの家庭料理で、トンカツに似ています。

Q1. 日本にはどんなイメージを持っていますか？

日本にはフレンドリーな人が多いと思います。あと日本と言えば素敵な風景と奇妙な CM です。

Q2. 日本に行ったらどこに行きたいですか？

高い建物が好きなので、東京の高層ビルを訪れたいです。有名な山とかお寺とかも行きたいです。

東京スカイツリーから見える街並みを見せたとき Crazy!と目を輝かせていました。近代的な建物が好きらしいです。

Q3. 日本の有名人で知っている人は誰ですか？

オノヨーコ

Q4. 去年の夏に日本人と会ったときの印象はどんな感じでしたか？

日本人はフレンドリーだって聞いていたけどやっぱりその通りだと確信しました。

Q5. 今ドイツの若者の間で流行っているものはなんですか？

Rewindide や Unge or Bibis Beauty Palace などの YouTuber や、Cro や Nena という歌手、Sido というラッパーが流行っています。

検索してみるとどちらの YouTuber もゲーム実況っぽかったです。

Q6. ドイツでお気に入りの場所はどこですか？

高い所が好きだからアルプス山脈が大好きです。あと、フランクフルトとハンブルグのかわいい高層ビルが好きです。



←フランクフルトの街並み

2015年にフランクフルトは  
①生活の質 ②環境 ③経済  
を総合的に評価したランキングで  
世界一になりました(東京は21位)。  
グローバル金融の中心地です。

ハンブルグの街並み⇒

ハンブルグはベルリンに次ぐ第二の都市  
と言われています。北ドイツにあり、ドイ  
ツ最大の港を持っています。ブラムス  
が生まれた場所としても有名です。



Q7. 学校では日本語を専攻しているけど、なぜ日本語を選んだのですか？

ラテン語とかフランス語とかは絶対にやりたくなくて、面白い言語をやってみたかったからです。



Franjo くんが通う大宮高校の姉妹校、  
ライヒハード高校はドイツの高校のなかで数少ない日  
本語を学べる学校です。

学校の外壁には日本語が大きく書かれています。

# Janika Galow(ヤニカ ガロウ)さん

年齢 14 歳 誕生日 8 月 1 日

好きなこと：音楽鑑賞、ギターを弾くこと、  
バレーボール、  
アナと雪の女王” のエルサとオラフ

彼女は、昨年受け入れをしてくれて、特にお母さんが日本大好きです。現地では学校で勉強しているという日本語も少し披露してくれました。



Q 日本に対してどんなイメージをもっていますか

A. 日本には興味深い文化や、茶道のような美しい伝統文化がたくさんあります。他にも、華道や歌舞伎など多くの伝統文化を持つにも関わらず、先進国として科学の最先端をいくところも素晴らしいです。また、日本の自然も大好きです。

Q 来年日本に来たらどこに行きたいですか

A. 東京ディズニーランド！！ドイツにはないので・・・あと、テーマパークとかに行って日本のことについて知りたいです。

日本人からすると、ドイツにあるシンデレラ城のモデルになったといわれたノイシュバンシュタイン城に行きたいですね。

Q 昨年度、日本人が来て驚いたことはありますか

A .私の家に来てくれた大宮高校の生徒と仲良くなれたことです。違う文化を持っていてもこんなに仲良くなれるんだと感動しました。

Q コロナで休校の間どのように過ごしましたか

A :友達と電話で話したり、手紙をやりとりしたり、ケーキを焼いたり本を読みました。大体の時間は寝てたり庭にいたりしました。

ちなみにフランジョ君からは、「パソコンの前にいる時間が増えました。動画編集などをしています。今は友達とはマスクをしているので普通に会っています。国の決まりごとには従うようにしています。そんなに変わってない感じです。」という返事をもらいました。

Q 大宮高校の生徒に一言

A コロナウイルスのせいで、今年は日本に行くことはできないけど、来年に本に来て楽しい時間を過ごすのを楽しみにしています！

実は彼女、昨年私の受け入れをしてくれて、本当だったら今年、私が受け入れをする子でした。思いもよらないことで、本当に悲しいですが、これからもネット等を使ってドイツ校と交流し、情報を発信できるよう、委員会一同頑張ります。



最後にコロナ禍のドイツについての話題を紹介します。

## 話題になったメルケル首相のスピーチ



メルケル首相が3月18日、国民に向けて行ったスピーチが世界中で話題になりました。テレビを通して約12分間に渡り語りかけ、一人ひとりの行動の重要性、連邦政府の方針、今頑張ってくれている人々への感謝などを伝えていました。

私も和訳されたものを読んでみたのですが、メルケル首相の思いが飾られることなく表れていて感銘を受けました。特に、

「旅行及び移動の自由が苦勞して勝ち取った権利であることを実感している私たちにとっては、このような制限は絶対的に必要な場合のみ正当化されるものです。そうしたことは民主主義社会において決して軽々しく許されるべきものではなく…」

の部分に衝撃を受けました。

歴史に寄り添って政策を進めようとする姿がすごいかっこよく感じました。このスピーチを機にメルケル首相の支持率は急上昇したということです。ぜひ調べてみてください！

～ライヒハート・ギムナジウムの千田先生（日本語の先生です）より～

イースター休みを挟んで結局6週間ぐらいでしょうか、生徒たちは登校できませんでした。学年によっては、8、9週間ありませんでした。オンライン授業は全くせず、学校のホームページにあるLernplattformというところに課題やお知らせを出し、それを生徒がするという形でした。

登校が始まってからも、一斉に登校することではなく、学級を半分にして、1週間交代で月水金に登校するグループと火木に登校するグループに分けての授業でした。登校しない日はもちろん生徒たちは自宅待機です。ブランデンブルクの今年の夏休み入りは早く、6月25日からでした。どんなにコロナで登校できなくても、夏休みは全く変わらず同じようにあります。ここがドイツの凄いところです。